

【9期生社会活動イベント】

卒業後の社会活動の予行演習として2月から4月に実施した各学科のイベントです。

江戸川まちづくり学科

「エコであなたの暮らしとスッキリと」

4月5日花冷えの日、始まる前のビラ配り。今まで学んだ成果をパネルに展示。来場者の気持ちを花びらに一言書いて、会場の桜の木は満開になりました。

『わた布団作り体験』古綿でミニ座布団作りに格闘、昔を懐かしみながらの綿入れ、完成品に誰もが嬉しさいっぱいの様子でした。『親子で作ろう・エコパック』新聞紙を折って糊付けし、包装紙やシール、リボンを自由に使い、出来上がりに皆満足。展示見本はプレゼントに。『移動はエコな自転車で』正しく乗ろう・安全に。交通ルールの改正を含め、展示、映像、クイズで理解を深めました。『お休み処』江戸時代の暮らしを展示。麦茶、甘酒、金平糖などでおもてなし。無駄のない昔の暮らし方を話し合っていました。

担当：犬飼キヨ子、衣川章嗣

子ども・子育て応援学科

♪みんなで遊ぼう ワクワク広場♪

2月8日は45年ぶりの大雪、イベントが実施できるのかと不安の中での開催。イベント会場は子どもから大人まで50数名のお客様が来場され感謝!

ゲームコーナーでは風船や新聞紙のチャンバラ、まんから、お手玉、ことばさがし等、お客様と一緒に思いっきり楽しく遊び、体も脳もすっきりワクワク・スマイルでした。

お話し広場は、アンパンマンと昔話の紙芝居で親子の明るい笑顔が溢れ、パネルシアター、手あそび、子育て談義と、会場内は雪をも溶かすほどの熱気に包まれて盛り上りました。

クラス全員が持ち味を發揮し、楽しみながらイベントを実践する喜びを肌で感じ、子育て中のお客様と豊かな時間を共有出来た事は、これから社会活動の大きな力となりました。

担当：宍戸チイ子、千葉恭子、水野真紀子

国際コミュニティ学科

日本で世界を再発見

「そうか! そうだったのか!」を経験するのがテーマ。クラスが三手に分かれて勉強した。3月1日、近づく桃の節句。絹毛せんの上に手作りのお雛様が飾られ、「ひな祭り」のBGMが流れる会場には万国旗がはりめぐらされて賑やかな雰囲気でした。

◎アバカス(英語でそろばんの意)その起源から世界中での使われ方。線そろばんと算木の実際の演算。
◎ほんわかサークル お雛様の傍で世界のお茶をサービス。折り紙のコーナーではずっと長居の御方も。◎わくわくディスカバリー 玩具の起源を世界地図に探し、外国の伝承の絵物語、お手玉、動物いろいろはかるなど、盛りだくさん。世界の珍しい動物写真の説明、コマ回しなど、お客様方も全員参加の楽しいひとときでした。

担当：菅谷洋子、峯岸和英

介護・福祉学科

きて、みて、ふれあってみませんか

3月8日、84歳Yさん指揮による「富士山」の大合唱でイベントが始りました。

「ケア介護」関連の展示、「帽子プローチ作り」は若い女性から年配者や男性の参加で好評でした。

「歌う健康体操」はお客様が多数参加し会場を盛り上げました。

「ストレッチャー型車椅子」の展示は説明がわかり易く、日ごろ目にしない車椅子が見学でき参考になりましたとの声。

「昭和遊び」では童心に戻り囲碁・将棋、ケン玉、ペーロマなどを競う姿が懐かしい光景でした。

イベントは好評のうちに無事終わりました。

担当：榎本清一、笹田直子

同窓会の窓

今年は江戸川総合人生大学にとって10周年という節目の年です。卒業生は600人を超え、各地域で活躍中ですが、まだまだ区民の皆さんの認知度は高いとはいません。

この7月以降は、区民の皆様に活動内容を知っていただくイベントが目白押しです。一番の目玉はなんといっても『大学祭』です。在校生・同窓生が一丸となって、ご来場くださる皆様を「お・も・て・な・し」、沢山の方に人生大学の楽しさを知って頂きたいと思います。多田区長を始め、北野学長、各学科長や講師の先生方、事務局の皆さんにもご協力を頂いて盛り上げていきた

編集後記

10年ひと昔といいますが、今年度は江戸川総合人生大学開学満10年の節目の年です。この機会を捉え大学祭・同窓会とコラボして、何か記念に残るようなことが企画できないかと日々頭を痛めているところです。

その一環ともいえるのですが今回は10期生に普段感じている大学への期待や今後の抱負について語ってもらい、それについて先輩9期生はどう対応してきたかを話し合う、という座談会を特集しました。

今後もこうした大学の生の姿をご理解いただけるような内容を企画していくかと思っています。ご協力、よろしくお願いします。

編集長 峯岸 和英(国際9期)

●編集記事に関するお問い合わせは、大学事務局まで 電話: 03-3676-9075 / FAX: 03-3676-6545

編集:「ひと あい えどがわ」編集委員

- [9期生] 犬飼キヨ子、衣川章嗣(まち) 菅谷洋子、峯岸和英(国際)
宍戸チイ子、千葉恭子、水野真紀子(子ども)
榎本清一、笹田直子(介護)
- [10期生] 今上義雄、中谷喜美子(まち) 大西正子、佐藤宏光(国際)
五十嵐英男、中村雪子(子ども)
嘉陽宗善、佐々木康次郎(介護)

発行日 / 2014年(平成26年)7月1日

江戸川総合人生大学発行
人と地域をつなぐ情報紙

〒133-0061 江戸川区篠崎町7-20-19 篠崎文化プラザ

ひと あい えどがわ

<http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/>

【9期・10期合同座談会】新たな10年に向けた思いを語る



旧中川より東京スカイツリーを望む [写真:介護9期 榎本]

江戸川総合人生大学 新入生募集!

江戸川総合人生大学は開学10周年を迎えます。

第11期生を募集しています。

共に学び、楽しさ・発見・驚きを実感しませんか?

【申込資格】 区内在住・在勤・在学の方

【修学期間】 2年間

【授業料】 3万円

【申し込み】 区役所・各事務所・図書館・コミュニティ会館などにある「入学案内」に添付されている入学願書に必要事項をご記入の上、江戸川総合人生大学事務局(〒133-0061 江戸川区篠崎町7-20-19)へ持参または郵送してください。

【問合せ】 ☎ 03-3676-9075

学科名	授業実施曜日、時間
江戸川まちづくり学科	金曜日 14:00 ~ 16:00
国際コミュニティ学科	水曜日 14:00 ~ 16:00
子ども・子育て応援学科	木曜日 10:00 ~ 12:00
介護・福祉学科	火曜日 14:00 ~ 16:00



地域のために自分の力を活かしてみたい。江戸川総合人生大学はそんな方を応援するために江戸川区が開設した大学です。
(* 学校教育法で定める正規の大学ではありません。)

【9期・10期生の学科別合同座談会】

新たな10年の懸け橋となる10期生の本音 同じ学科を選んだ先輩9期生からアドバイスを・・・

江戸川まちづくり学科

五感を働かせての種さがし

取材：犬飼 キヨ子(9期)、衣川 章嗣(9期)
今上 義雄(10期)、中谷 喜美子(10期)

これから的人生いかに充実した日々をおくか、ライフワークとして取り組めることはないかと考えた時、「広報えどがわ」「ひと・あい・えどがわ」などで、人生大学のことを知りました。自分のやりたいこと、地域社会のこと、新たな人とのつながりが築けるのではないかという、わくわくした期待と、少しの不安を抱いて入学しました。クラスは50代～80代を中心の21人の学生でした。



ワークショップ風景

入学時に北野学長、多田江戸川区長の講義において、今までの江戸川区、これからの江戸川区、そして人生大学の成り立ち等、学んだことを今でも鮮明に覚えています。

先日、9期生との合同座談会で、先輩たちの中には、それぞれの事情により志半ばで退学された方が多数いたと聞き、残念でならないと感じました。

また少人数にもかかわらず、グループ発表の時間調整等、難しい作業活動でしたが、その都度得られた多くの学びは、大きな成果だったとも教わり感銘を受けました。

我々10期生もいろいろな不安や悩みを抱えています。
ファシリテーター？ ワークショップ？ パワーポイント？ プレゼンテーション？ 全部横文字です。ただそれだけでも戸惑いの連続で、それらを取り扱ってくれたのが、先輩方の「大丈夫、焦らなくてもいいよ」の一言と事務局の細やかな下準備、講師のゆっくり丁寧な講義進行の中に、今では不安や悩みは払拭されつつあります。

『まちづくり学科』は江戸川区を知る事を重視している学科です。いわゆる「種探し」です。五感を働かせ、足で歩き、アンテナをはり、環境問題、防災対策等「種探し」の“種”は尽きません。これからの中10年どんな「種探し」があるか、また江戸川区の10年後は、どんな地域になっているのか見守るのも私たち学生の大きな役目ではと思っています。子育ても終わり比較的時間の余裕のある私たち一人ひとりが地域に対し、何ができるか課題を持ち続けて行くことが大切な事ではないかと考えています。



国際コミュニティ学科

目指そう！より強い絆を

取材：菅谷 洋子(9期)、峯岸 和英(9期)
大西 正子(10期)、佐藤 宏光(10期)

9期生との合同座談会は、10期生にはとても参考になるものでした。10期生の入学後の感想は、授業内容に対する評価の声が多く聞かれました。また、海外滞在経験のあるクラスメイトの話や、外国人の講師から受ける授業が新鮮で、他の学科を卒業してこの学科に再入学して来たクラスメイトは、国際コミュニティ学科は面白いという感想を述べていました。



※GIIISにて

しかし、授業にフィールドワークが入ってきてから、取っ掛かりが分からなく、どこに行ってどうすれば良いのかという戸惑いがあり、最初はみんな不安でいっぱいでした。そのような時始まったフィールドワーク授業で生まれたグループの中で、学生相互のつながり、助け合いの機運が高まり、クラスメイト同士がとても近く感じられるようになって、学生間の交流が着実に進んでいるのもこの授業の成果だと感じている10期生が多くいました。

また、10期生にとっては初めての経験となる大学祭が間近に迫っています。その準備のために大学のキャンパス内で過ごす時間がが多くなり、クラスメート同士の連帯感がますます深まってきているのが実感です。

さて、2年次に授業として組まれている40時間の社会活動体験については、9期生からの話を聞いて初めて、この授業の仕組みを知った10期生が多かったようです。皆、一様に不安を抱きながら、9期生の言葉に耳を傾け、質問を重ねました。

9期生の体験を聞くうちに、10期生の不安も少しずつ納まり、次のようなアドバイスが心に響きました。「持っている能力、カラーが違うのだから、自分にできることをやれば良い。持っているものを活かせる場、それを探すことが大切」と。

そして出席した10期生はこれからの学生生活を、これまで以上に皆で協力してより有意義なものにして行こうと誓い合って合同座談会をお開きとしました。

※グローバルインディアンインターナショナルスクール



子ども・子育て応援学科

社会活動体験を通じ地域貢献へ

取材：宍戸 チイ子(9期)、千葉 恵子(9期)、水野 真紀子(9期)
五十嵐 英男(10期)、中村 雪子(10期)

入学してから半年が過ぎ、子どもの発達の特徴、家庭での教育のあり方、江戸川区やボランティアの取り組みなど、毎回新しい発見のある講義ですが、やはり不安なのが2年次の40時間社会活動体験についてです。



グループワークで意見交換

10期生から、どのようにして受け入れ先を探したのか？活動で得たことは何か？など矢継ぎ早に質問が飛びました。

これに対し、9期生の皆さんから、次のような話がありました。活動する先は各自で探すことになるけれど、授業の中で紹介されたボランティア団体や卒業生が運営しているサークル、区内の施設などに連絡すれば、喜んで受け入れてもらえるし、大学祭の時に声をかけて下さる団体もあります。案外探すことには苦労しませんでした。

経験から言うと、講義の中で興味の湧いたところを手掛かりとして相談してみることをお勧めします。また、複数の現場で活動してみたり、学科にこだわらず、介護や福祉施設を選んでもまた新しい発見があると思います。

今振り返ってみると、この社会活動体験が、現在自分が関わっているボランティア活動のスタートになっている気がします。

さて、次の話題は7月に迫っている大学祭についてです。10期生にとっては初めての大きなイベントで、準備はどのように進めるのか？ステージや展示は何が必要なのか？焦るばかりで要領がわかりません。

昨年9期生が行ったのは、展示については、授業の中で発表を使った模造紙を活用したり、フィールドワークの写真などを貼り、周りに飾りつけをしたそうで、ステージでは、「おさんなじみ」の替え歌を歌い・踊りながら会場を盛り上げたとのことでした。

当日までは色々大変なこともありましたが、このことでクラスがすごくまとまり、大学祭はとにかく楽しめました。

最後に9期生の皆さんから「せっかくこうやって交流ができたので、これからも困ったことがあったら何でも相談して」と言葉をかけていただき、優しく・頼もしい先輩に感謝の気持ちでいっぱいになりました。



介護・福祉学科

たくさんの学びから自主的な活動へ

取材：榎本 清一(9期)、笹田 直子(9期)
嘉陽 宗善(10期)、佐々木 康次郎(10期)

座談会は入学の動機から始まりました。

○自分の周りに介護について関係した人が増えてきたので、勉強するにはふさわしい。



高い！学ぶ意欲

○「何も知らない」領域にも関わってみたい。

○ヘルパーをやっていたので、改めて勉強したい。

○後期高齢者になったとき、世の中どうなるのかなと思った。大学に入って勉強したい。

○大学のことは前から知っていて、時間ができたら行きたいなと思っていた。

○介護について関わっていたものもあったので、もう一度勉強したい。

このように、入学動機はいろいろでしたが、自分自身を含めて、自分の身の周りの人々が高齢化していく中、介護・福祉のことが身近な問題となってきたようでした。

講義では、最先端で活躍されている方々のお話をたくさん聞くことができました。理論的にも実践的にも素晴らしい講師陣で、目からうろこの内容が多々ありました。入学前は、もう少し初歩的な内容や介護技術の仕方などを学ぶのかと思っていたが、実際は専門性の高い講義が多く、レベルの高いものでした。戸惑いを感じた部分もありましたが、「とても勉強になっている」「一歩も二歩も前に出ることができてよかった」との感想も出されました。介護現場の現実とは違いを感じる部分もありますが、自分自身がどう捉え、考え、進んでいったらよいかがこれからの課題になるとの話も出ました。

2年次では、より主体的に課題を捉え、解決していく学習に変わっていきます。社会活動体験も、何かに頼るというのではなく、自分から探していくことが大事だとの指摘を受けました。この後、2年次に向か、社会活動体験などについて、不安や疑問に思っていることに対し9期生からアドバイスをいただき、予定時間を超える座談会になりました。

